



会津北嶺高校（会津若松市相生町）では、9月16日、昨年に続き、全校生約350名と教職員、会津歴史研究会の方で神指城跡の雑草除去と本丸跡の東西に通る歩道の整備を行った。

作業前に会津歴史研究会の井上昌威会長が、神

指城跡の歴史の解説を行った。「慶長5年（1600年）会津領主上杉景勝は鶴ヶ城の立地が山に近いことを危惧し、周囲

が開けていて大川の水を利用できる神指原（こうざいはら）の地に築城を始めました。しかし、この築城工事が徳川家康に

上杉征伐の口実を与え、数ヵ月後の6月10日、家

康の会津征伐が間近に迫ったことから工事は中止。神指城は工事途中のまま残され幻の城となりました。

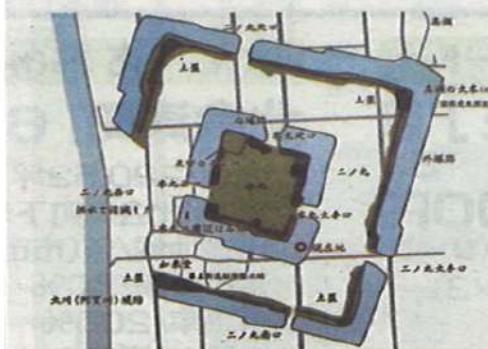
「今年は猛暑のせいで、例年以上の草が生い茂りましたので草刈りも大変でしたが、生徒たちがよくやつてくれました。この地は、10年ほど前までは畑が点在して農道が遊歩道として利用できましたが、近年は耕作される

会津北嶺高校 神指城跡において歴史探訪と草刈りボランティアを実施

令和4年9/25(日)第2020号

週刊新聞サンデーあいづ社
ポスティング事業部

〒965-0825会津若松市門田町黒岩字大坪179 TEL(0242)29-2010(代) FAX 29-2019
(メール)sanday-a@atlas.piala.or.jp (ホームページ)<http://www.sandayaizu.co.jp>



今年も遊歩道が雑草木で閉ざされていました。当校の生徒達の力で本丸を東西に走る遊歩道を再び開通させたことで、年間

5000人といわれる訪問者の皆様にも歴史のロマン感じて頂けると思います」と石山校長。
※神指城跡図面に○が付いているところに案内板がある。